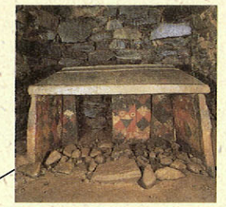
菊池川流域装飾古墳群

全国に四百八十基ほどある装飾古墳。その約四割が熊本県に分布する。さらに全国の約四分の一、百二十二基が菊池川流域に集中している。なぜ、熊本県の、それも菊池川流域に、こんなにも分布するのか…。そこに描かれる同心円文、三角文など、この一帯に多く見られる幾何学文様は何を意味するのか…。古代日本、四世紀から七世紀の古墳時代に、鮮やかな光を放つ装飾古墳の謎を追ってみた。

北から南から、文化がスクランブルする、大いなる菊池の流れ。

鍋田横穴墓群第27号横穴墓。横穴の入口に墳墓を守るかのように両手を左右に広げた人物像、弓、矢などが彫られている。



チブサン古墳。正面の丸い文様が乳房に見えることから、古く乳の神として信仰されてきた。

弁慶ガ穴古墳。ゴンドラ形の舟に馬が乗せられているのが分かる。

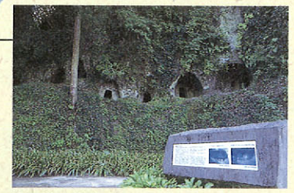
石貫穴観音横穴墓群。3つの大きな横穴が並び、中央の穴には、他に例のない千手観音像のレリーフがある。

石貫ナギノ横穴墓群第7号横穴墓。アーチ型の入り口には、鮮やかな同心円や三角文などが描かれている。

永安寺東古墳。巨大な加工石を組み立てて石室を築く、その技術の高さは有名。写真は石室内の円文。

塚坊主古墳。遺跡確認調査時のもの。石室などの構造がよく分かる。

県立装飾古墳館。装飾古墳のレプリカや出土品などが展示され、古代を体験できる。



岩原横穴墓群。第16号横穴墓の舟形の屍床には珍しい「櫓べそ」(舟の櫓を受ける突起)がある。

大坊古墳。赤と群青色の三角文様は、現代アートとみまがう素晴らしさ。